2019.05.27

言語文化部会　令和元年度の研究の方向

言語文化部会 部長：揖斐川町立坂内中学校　清水　裕樹

１　はじめに

昨年度は、研究主題を「言語に親しみ，生活につなげる能力の育成～『言葉への自覚』を高める指導の工夫～」と設定して、実践を積み重ねてきた。その成果と課題は下記のようである。

○「『言葉への自覚』を高める」という言葉の意味を定義付けたことで、生徒にどんな力を付けるべきなのかを明確にして授業を構想することができた。
○自己の考え等を思考・判断・表現するための言語であるという認識のもと授業を構想したことで、より主体的に、教材で学ぶ生徒の姿が増えた。
●さらに、言葉を文脈に即して理解しているか、適切に活用することができているのかということを分析していく方途について、研究を進めていきたい。

新学習指導要領に新出した「言葉への自覚を高める」という文言。言葉を感覚的に使っていくのではなく，正しい根拠を基にして言葉を自覚的に用いていくことが求められているといえる。また、全国学力学習状況調査等の結果を見ても、「語彙指導の充実」は国語科に喫緊に求められている課題であるといえる。そこで今年度は、より言葉を自覚的に用いていくために、どのように語彙指導を行っていくとよいか、またそれらを３領域とどのように関わらせていくとよいかを視点に研究を進め、2021 年度の飛騨地区県大会に向かっていきたい。

「『言葉への自覚』を高める」の定義
→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

２　今年度の研究の方向

《言語文化部会として目指す生徒の姿》
・社会生活において必要な国語の特質について理解し，それを適切に使う生徒
・国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
・古典の世界と，身近な生活とのつながりを感じ，古典に親しむ生徒

《言語文化部会　研究主題》

言語に親しみ，社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》
・語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して，言葉のもつ価値を認識し言語感覚を豊かにする言語活動を系統的に設定すれば，言葉への自覚を高めることができる。
・古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材分析を行い，社会生活とのつながりを意識させる言語活動を設定すれば，古典に親しむ生徒を育成することができる。

《研究内容》
①「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫
　（１）語句の量を増し、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫
②「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫
　（１）言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の定着）
　（２）３領域との関連の中で、語句の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫
③評価の工夫
　（１）生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

３　主題設定の理由

今回の学習指導要領改訂では、従前、「３領域１事項」に分けられていた指導事項が、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直された。このうち、〔知識及び技能〕については、学習指導要領解説において「『知識及び技能』は、個別の事実的な知識や一定の手順のことのみを示しているのではない。国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く『知識及び技能』として身に付けるために、思考・判断・表現することを通じて育成を図ることが求められる」と定義された。つまり、これまで本県では、言語文化部会の研究内容としてきた分野が〔知識及び技能〕に統合され、思考・判断し表現するために必要な技能としての知識を育成していくことが引き続き求められているといえる。

同時に、深い学びの実現の鍵として、言葉による見方・考え方を働かせることが重要であると明記されており、「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである」と定義されている。つまり、より正しい根拠を基にして言葉を自覚的に用いていくことが深い学びには必要であるといえる。

以上のことより、語彙や表現等が単体としての知識ではなく、相互につながり合った知識として構成していくことが必要であり、その鍵が「言葉への自覚」を高めていくことであるといえる。

このことから、言語が思考・判断・表現するための知識・技能となり、これからの時代を生き抜いていくための武器として活用していける姿を目指し、研究主題を「言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成」。副主題を「『言葉への自覚』を高める指導の工夫」と設定した。

４　今年度の計画

日にち	会合名等	内　容	部会としての見通し
５月 27 日	・第１回　研究部総会	○今年度の研究の見通し ○役割分担	・研究の方向を具現化するために、どんな実践を積み重ねたいかを考える。
８月６日	「明日の授業を考える会」 in 一之宮公民館（高山市）	○授業相談	
	中学校国語科研究協議会 ◆第１回「言語文化部会」	○2021 年度飛騨地区 県大会に向けて →研究の方向の確認・役割分担（授業者・実践発表者の決定）	・飛騨地区大会で、どんな授業を公開するのか見当をつける。
８月 19 日	夏季研修会 in ぎふメディアコスモス	○講演拝聴	※可能なら、見当をつけた授業を実践する。
12 月下旬	「明日の授業を考える会」	○授業相談	
１月上旬	「ぎふこくご」原稿提出（部長提案＋部員実践報告・部会代表提案）		
２月 17 日	・第２回　研究部総会 ◆第２回「言語文化部会」	○本年度の成果と課題をまとめ，2020 年度の方向を決定 ○「中国研ＨＰを活用した情報共有」の練り合わせ ○実践発表を通して，本年度の歩みを県下に発表	・実践の成果と課題を交流する。（飛騨地区大会に向けての授業の方向性の決定） ・飛騨地区大会に向けて、部会としての実践発表について検討する。

※日程や場所については、変更になる可能性があります。